

第1回：テーマを見つける

株式会社精興社

テーマがはっきりしていることのメリットは下記の2点です。

- ・つくりやすい
- ・読みやすい

テーマがはっきりしていると、自分史づくりの各手順（題材探し、取材・回想旅行、原稿執筆）において、ブレが生じません。テーマがはっきりしていないと統一性のない自分史ができてしまいがちです。

例えば、「結婚」を題材として取り上げるとき。テーマが「住まい」であれば、一国一城の主として結婚生活を送りたいという気持ちを中心に書くことになりそうです。テーマがはっきりしていなければ、妻との出会いや結婚を意識したエピソードが中心になるでしょう。この結婚の章だけを見れば、なんの不自然もありません。

同様に、「ハム（アマチュア無線）」を題材として取り上げるとき。テーマが「住まい」であれば、自宅を購入したことが無線局を申請できた理由になり、そのエピソードを書くことでしょう。テーマがはっきりしていなければ、ハムに興味を持ったきっかけから、ハムの解説まで幅広いことを書くことになりそうです。それはそれで間違いではありません。「趣味はハム」ということであれば、なんの問題もありません。

しかし、自分史の本として、「結婚」「趣味はハム」と関連性のない章が二つ並ぶと、書き手の思い出が並んでいるだけのように思える自分史になってしまいがちです。それでは、読者は混乱し、最後まで読んでくれなくなるかもしれないのです。しかし、「住まい」というテーマがはっきりしていれば、「結婚」と「趣味はハム」に関連性があるので、読者は飽きることなく、最後まで読んでくれる可能性が高くなるのです。だから、テーマを決めることは自分史づくりにおいて、重要であり、はじめに決めておきたいことなのです。

テーマの見つけ方

動画を見てください。野見山先生は、安田さんが書いた5枚程度の自分史を読み、プロフィールを確認しながら、人生の歩みをたどり、安田さんの関心事を確認しています。そして、そのやりとりを通して、「住まい」がテーマであることを見つけ出しています。

このように、テーマは作り手のプロフィールや興味関心にそったものであることがほと

んどです。書こうとする題材を列挙してみて、何か共通点はないか探してみてください。
あるいは、あなたにとって、人生を通して変わらない興味や関心は何でしょうか？ その
答えがテーマになるはずです。